

I 実践

1 研究主題

思いやりの心をもって、好ましい人間関係を築くことができる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校は全校児童23名、複式学級のある小規模校である。昨年度から小中一貫教育が始まり、コミュニケーション科が新設され、様々な表現活動の場を設定してきたことで、自分の考えを相手に伝えようと意識し、表現できるようになってきた。しかし、児童の人間関係をみると、自分の思いは伝えられるようになってきたが、相手の気持ちを汲み取ることに課題がある。

そこで、様々な体験活動を取り入れることで、相手を思いやる心を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ア 特別養護老人ホーム「山水苑訪問」 5・6年生 総合的な学習の時間
- イ 日立特別支援学校との交流学習 1, 3・4年生
- ウ 「いじめをなくそう人権教室」 3・4, 5年生

2 実践内容

(1) 特別養護老人ホーム「山水苑」訪問 5・6年生 総合的な学習の時間

5・6年生は総合的な学習の時間に「中里の福祉について考え、自分たちにできることから始めてみよう」というテーマで学習をしてきた。「福祉」とは何かという学習からスタートし、学区内にある特別養護老人ホーム「山水苑」のお年寄りのために自分は何ができるだろうと進めてきた。

訪問は2回行われた。1度目は自分たちの発表（歌、合奏、紙芝居など）を見ていただいた後、一緒に塗り絵や、福笑いをして楽しんだ。しかし、初めて接するお年寄りの方を前に、「積極的に話しかけることができなかった」「お年寄りの間に入って活動することができなかった」「車椅子の方には無理なレクリエーションだった」というような反省が出された。

2度目は前回の反省を生かして「自分から積極的に話しかける」、「お年寄りに分かりやすく話す」などそれぞれがめあてを持ち計画を立てた。一緒に童謡を歌った後、ダルマ作りをした。お年寄りと二人で一つのダルマを完成させたことで、お互いの距離が近くなり、楽しそうに過ごす姿が見られた。



【第1回目訪問・発表、塗り絵の様子】



【第2回目訪問・ダルマ作り】

(2) 日立特別支援学校との交流 1, 3・4年生

自己紹介やゲームなどを通して、お互いをよりよく知り仲良く活動することをねらいとして行った。事前に昨年度行った交流を思い出してから、日立特別支援学校からのビデオレターを見た。一緒にどんなことができるか、気をつけなくてはならないことは何かなどを話し合い、相手を楽しませてあげたいという意欲を持たせた。特にプレゼントについては、動かして遊べるものがいいだろうというアイディアが出され、でんでん太鼓を作った。



【ゲーム：バルーン】

当日は一緒にゲーム「ロンドン橋」「バルーン」、「八木節」のダンス発表、「おもちゃのチャチャチャ」の合奏をした。日立特別支援学校の児童が踊る「チェッチ

ェッコリ」を観た。その後プレゼント交換を行った。中里小の児童も特別支援学校の児童も仲良く楽しく過ごすことができた。

事後には手紙の交換をすることで交流を図った。

(3)「いじめをなくそう人権教室」 3・4・5年生

人権擁護委員鈴木明子先生をお迎えし、3・4・5年生10名が授業を受けた。アニメビデオ「いじめはゼッタイ悪い」を鑑賞し、いじめられている人物、いじめている人物の気持ちを考えた。最後に自分が登場人物と同じような立場になったらどうするかを考えワークシートに記録した。以下のような意見が出された。



【人権教室：授業の様子】

3年生

- ・もしも自分がいじめを見たら、先生や親にはなかなか言うことはできないけれど、勇気を出していえるようにしたい。
- ・いじめてくる人に「やめてよ、もう絶対やらないで」と言う。

4年生

- ・もしも私がいじめられたら、先生や大人の人に言うと思います。他の子がいじめられていたら「いじめは悪いことだよ。」とその子に言ってあげる。
- ・いじめはゼッタイだめだと思いました。いじめのことがよく分かりました。

5年生

- ・私がもしいじめられたら必ず大人の人や友達に相談します。いじめを見つけたら絶対に逃げないで「やめなよ」と言ってあげます。逆に私がいじめられているときは近くにいる人に助けを求めます。そしていじめている子にいじめをされてつらいことや悲しいことを伝えてすぐにやめてもらいたいです。

3 成果

特別養護老人ホーム「山水苑」訪問では、お年寄りに対して自分たちは何ができるだろうと真剣に考えることができた。また、前回の訪問の反省を生かして積極的に話しかける児童や話題を考えてくる児童も見られた。お年寄りの方に喜んでもらえると自分もうれしいという感想も出てきたことから、児童の心の成長を感じた。

日立特別支援学校との交流学习では、3、4年生が3回目の交流だったため、特別支援学校の児童一人一人の個性を素直に受け入れ、話しかけたり、手をつないだりして楽しく過ごすことができた。初めての交流だった1年生も戸惑うことなく一緒に活動することができていた。

「いじめをなくそう人権教室」では、三学年合同で行ったことで、発達段階に合った意見を出すことができ、いじめについて改めて考えるよい機会となった。

II 今後の課題

小規模校であるため、自分中心の考え方をしてしまう児童が見られる。今後も人権について考える様々な体験ができる場を設定していきたい。

また、人権コーナーを充実させ、児童の感想や考えなどを掲示していきたい。

III 人権コーナー設置の様子

23年度人権メッセージの最優秀作品を掲示し、いつも児童の目に触れるようにした。また、24年度の全児童の人権メッセージを顔写真とともに掲示した。

外国の方との交流（ワールドキャラバン）、特別支援学校との交流、お年寄りとの交流（特別養護老人ホーム「山水苑」訪問5・6年生総合的な学習の時間）について交流の様子の写真や手紙などを掲示した。

